

## 平成 30 年 3 月期 第 1 四半期の業績（連結）について

### （1）売上収益 （短信 2 ページ）

当第 1 四半期の売上収益は、前年同期比 22 億円（3.7%）増加の 609 億円となりました。

抗悪性腫瘍剤「オプジーボ点滴静注」は、昨年度に効能追加された腎細胞がん、頭頸部がん等のがん腫への使用が拡大しているものの、2017 年 2 月より薬価が 50%引き下げられた影響などにより、前年同期比 54 億円減少（21.4%減）の 198 億円となりました。一方、ブリストル・マイヤーズ スクイブ社からの「オプジーボ点滴静注」のロイヤルティ収入は、前年同期比 46 億円増加（108.4%増）の 89 億円となりました。

その他の主要新製品では、2 型糖尿病治療剤「グラクティブ錠」は前年同期比 7 億円減の 70 億円、骨粗鬆症治療剤「リカルボン錠」は 2 億円減の 27 億円と競争激化に伴い減収となったものの、関節リウマチ治療剤「オレンシア皮下注」は 6 億円増の 33 億円、2 型糖尿病治療剤「フォシーガ錠」は 8 億円増の 26 億円と堅調に推移いたしました。また、昨年度新発売しました多発性骨髄腫治療剤「カイトプロリス点滴静注用」は 12 億円、血液透析下の二次性副甲状腺機能亢進症治療剤「パーサビブ静注透析用」も 6 億円と堅調に推移しています。

長期収載品は競合品や後発品使用促進策の影響を受け、減収となっております。

### （2）営業利益

営業利益は、前年同期比 30 億円（17.2%）減少の 143 億円となりました。

費用面では、売上原価が、製品商品の売上減少に伴い前年同期比 11 億円（6.6%）減少の 151 億円となりました。研究開発費は、「オプジーボ点滴静注」関連費用が増加したことにより、前年同期比 38 億円（34.3%）増加の 149 億円となり、販売費及び一般管理費（研究開発費を除く）は、「パーサビブ静注透析用」等の新製品発売に係る営業経費のほか、「オプジーボ点滴静注」の営業経費や安全性情報管理に関わる経費が増加したことにより、前年同期比 22 億円（15.6%）増加の 162 億円となりました。

売上収益が 22 億円の増収となったものの、研究開発費や販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は前年同期比 30 億円の減少となりました。

### (3) 税引前四半期利益

金融収益が前年同期比横ばいで、金融費用が前年同期比 5 億円減となったことから税引前四半期利益は前年同期比 24 億円減の 158 億円となりました。

### (4) 親会社所有者に帰属する四半期利益

親会社の所有者に帰属する四半期利益は、税引前四半期利益の減少に伴い、前年同期比 19 億円 (13.9%) 減少の 118 億円となりました。

なお、利益につきましては、5 月 11 日に公表いたしました第 2 四半期累計期間の利益を上回っておりますが、費用の進捗状況等を踏まえ、第 2 四半期累計期間および通期の業績予想からの修正はございません。

#### <主な製品の進捗状況>

##### ■ オブジーボ点滴静注

本年 2 月の緊急的な薬価引下げの影響、競合品 (キイトルーダ) の影響もあり、前期比 54 億円 (21.4%) 減の 198 億円となりましたが、腎細胞がん、頭頸部がんにおける新規使用が増えた結果、数量ベースでは 60%程度の増加となっています。

2017 年 7 月 15 日までの使用患者数は約 20,000 人で、がん腫別では非小細胞肺がんが約 15,500 人、悪性黒色腫が 2,200 人、腎細胞がんが約 1,400 人、ホジキンリンパ腫が約 100 人、本年 3 月に承認された頭頸部がんが約 670 人となっています。

通期見込については、現在申請中の胃がんへの効能が追加された後に見直す予定ですが、今秋承認見込の胃がんについての対象患者数は、当社独自調査 (外部データと第 3 者を通じてのアンケート結果) によると、3 次治療 10,000 人、4 次治療以降 3,000 人の合計 13,000 人となります。実際に使用される患者数は、3 次治療対象患者さんの 4 割程度、4 次治療以降の 2 割程度と想定しており、今期の売上についての寄与は 60 億円程度と考えています。

##### ■ グラクティブ錠

DPP-4 阻害剤の市場での競争激化により前年同期比 7 億円 (8.6%) 減の 70 億円と、通期計画 (295 億円、対前期比 0.4%) より若干遅れていますが、新規処方例数の拡大を図ることにより、通期では期初計画の 295 億円 (対前期比 1 億円増) を見込んでいます。

■オレンシア皮下注

前期に引き続き、前年同期比 6 億円 (23.1%) 増の 33 億円と堅調に推移しています。

■リカルボン錠

前年同期比 2 億円 (6.0%) 減の 27 億円と、ほぼ計画線上で推移しています。なお、内訳は 1mg が 1 億円、50mg が 26 億円となっています。

■フォシーガ錠

前年同期比 8 億円 (45.7%) 増の 26 億円と堅調に推移しています。

■リバスタッチパッチ

ほぼ横ばいの 22 億円となりました。通期計画の 100 億円 (対前期比 12.9%増) に対しては、やや進捗が悪いですが、貼付剤としての剤型的利便性への評価も高まってきており、新規使用患者数の拡大を図ることにより、通期計画の 100 億円を達成していきます。

■イメンドカプセル／プロイメンド点滴静注用

前年同期比 1 億円 (3.5%) 減の 25 億円と、ほぼ計画線上で推移しています。なお、売上の内訳はイメンドカプセルが 19 億円、プロイメンド点滴静注が 6 億円となっています。

■カiproリス点滴静注用

12 億円となりました。昨年 8 月に承認取得しました 3 剤併用レジメンに加え、本年 5 月に高容量での 2 剤併用レジメンも承認されており、通期計画の 60 億円に変更はありません。

■オノアクト

前年同期比ほぼ横ばいの 22 億円となりました。

■パーサビブ静注透析用

6 億円と好調な滑り出しとなっています。すでに活動対象施設約 4,000 軒の 70% で口座獲得が出来ており、新発売以降の使用患者数も 1 万人を超えています。

■長期収載品

オパルモン等の長期収載品については、引き続きジェネリックの影響を受け、20% 強の減収となりました。